

2019年度 第3回長崎県がん診療連携拠点病院研修会
(アンケート調査結果)

開催日 2019年10月1日(火)

時間 18:00~19:30

場所 第3講義室

出席者 84名 ・ 回答者 59名

出席者の内訳

施設名 職名	大学	みなと	佐世保 市総合	諫早 総合	原爆	佐世保 中央	島原	長崎 医療	他施設	合計
医師	10名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	10名
薬剤師	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	4名
看護師	51名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	2名	54名
MSW	2名	3名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	1名	8名
放射線技師	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
事務職員	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	4名
その他・不明	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	4名
合計	70名	3名	0名	0名	2名	0名	0名	1名	8名	84名

～今回の講演の内容について～

特別講演「AYA世代がん患者の理解と支援 ～家族の支援も含めて～」

① よかったところ

- ・最近、AYA世代の患者と接する機会が増えているように感じる。そのようなときに心情やライフスタイルに合わせた関わり方についてヒントをもらったようで大変勉強になった(薬剤師)
- ・AYA世代へのカウンセリングの注意点を具体的に学ぶことができてよかった(医師)
- ・AYA世代の意思決定での看護を学べた(看護師)
- ・AYA世代のがん患者が健常者との悩みと大きく変わらない。個々の悩みや思いにどう向き合っていくかが大切であると感じた(看護師)
- ・医療者とは死生観も、価値観も違うことを念頭に置いて、多職種で関わっていくことが大事。意図を持った雑談でその人の思い、本心を引き出していくことが必要。改まった状況だと本心を語らないことも多い(看護師)
- ・どう向き合うかの1つのヒントになった(看護師)
- ・AYA世代のPtに関わる機会が少ないが、先日関わったPtの化学療法はしないという思いに、少し寄り添えた気がした(看護師)
- ・AYA世代がん患者の心理、社会的特徴を系統的に説明されたこと、意図をもって雑談をして、その中から本人の意志の背景を探り出すということが大事だということ。医師、看護師、心理士の役割分担→医療スタッフで情報共有→価値観を守りながら繰り返し説明(説得ではない)(医師)

- ・ AYA 世代を取り巻く現状、捉え方が少し理解できた（看護師）
- ・ AYA 世代という言葉も理解していない状態だったため、それが知れたこと（看護師）
- ・ AYA 世代の方との関わり方や個々の会話の中から情報を見つけることなど、家族の気持ちを考えていくことなど（看護師）
- ・ AYA 世代という言葉を知ることができ、わかりやすかった。抗がん剤治療を受ける患者さんへの看護に活かせる（看護師）
- ・ 具体的な看護師としての AYA 世代への関わり方も教えられた（看護師）
- ・ 悩みや声掛けはチームで共有すること、実際の例を見てイメージができた（看護師）
- ・ もやっとなることがわかった（看護師）
- ・ 世代特有の心のケアを知れてよかった（看護師）
- ・ ストレngthsを見出していくというところ、内容がポジティブだったところ、スタッフのエンパワメントも必要だというところ（看護師）
- ・ 家族を含めた具体的な支援（看護師）
- ・ 心理的サポートに関する講演はあまりなかったのでよかった（薬剤師）
- ・ がん患者に限らず、意思決定支援の難しさ（事務職員）
- ・ 親の過干渉による影響がよかった。親がいないところで話をすることが大切ということがよかった（看護師）
- ・ コミュニケーションに困ったことや感情を引き出せないこともあったので意識していこうと思う（薬剤師）
- ・ 具体的な（実際の）事例を聞いたところ（看護師）
- ・ あまり普段なじみのない分野だったので、コミュニケーションも含め、勉強になった（看護師）
- ・ AYA 世代の患者さんとの関わりのコツなどを事例を交えて講義していただき、とてもわかりやすかった（看護師）
- ・ 今までの自分の関わり方の振り返りになった（看護師）
- ・ 患者さんの価値観や人となり、話の中から理解することでよりよいサポートができるという話（薬剤師）
- ・ 例をあげながらだったのでわかりやすかった（看護師）
- ・ AYA 世代のがん患者さんとは今まであまり関わったことがなかったので、考えるいい機会になった（看護師）
- ・ AYA 世代の患者さんへの対応について理解が深まった（看護師）
- ・ AYA 世代がん患者さんに寄り添っていくことが素晴らしいと思った（看護師）
- ・ 具体的に AYA 世代の特徴についてわかりやすく説明していただいてよかった（看護師）
- ・ 事例が示されてわかりやすかった（看護師）
- ・ AYA 世代のがんについて理解を深めることができた（看護師）
- ・ 意図的に普段の会話の中から、価値観など聞き出していく。コミュニケーションの取り方、AYA 世代に限らず大切なことだと思った（看護師）
- ・ AYA 世代の患者さんがいらっしゃる病棟へ異動になったので、今日の研修会で学んだことを活かして患者さんと向き合っていきたい（看護師）
- ・ 症例を出して下さってわかりやすかった（MSW）

- ・ AYA 世代の関わりで対応が困ったことがあり、支援方法を学べてとても勉強になった（看護師）
- ・ AYA 世代の現状を知れてよかった（臨床心理士）
- ・ 説明がわかりやすかった、聞き取りやすいテンポ（MSW）
- ・ 患者さんの考えの背景をきちんとつかんでいくことの必要性を感じた。自分の仕事でも日頃の患者さんとの接し方について改めて考えさせられた（MSW）
- ・ 事例を含めての説明で考える機会になった。AYA 世代の患者さんにあまり関わったことがなかったので勉強になった（MSW）
- ・ 事例を交え、お話いただいたので深く考えさせられた。今自分ががんになったらと自分の身に置き換えて考えた（不明）
- ・ AYA 世代の対応の難しさや対処のコツなどがよくわかった（事務職員）
- ・ 知らないことがおおく、勉強になった（その他）
- ・ 具体的な AYA 世代の患者さんの事例や対応を聞くことができ、参考になった。具体的な関わりのヒントを得ることができた（看護師）
- ・ AYA 世代の背景を認識できたと思う。事例を通してのわかりやすい講演でよかった（看護師）
- ・ ディスカッションの時間があつたのでよかった。事例もあつてわかりやすかった（看護師）
- ・ 事例を通して考えること、日常の会話、雑談の中から意図的に思い、価値観を引き出す等（看護師）
- ・ わかりやすかった（看護師）
- ・ アンメットニーズ、AYA がんの特異性についていろいろと考えさせられたこと、隣の看護師さんとの現状の話し合い、臨床心理士さんの働き方（医師）
- ・ アプローチの方法（視点をもって関わる、日頃の会話の中から意図的に話しながら情報を得る）（看護師）
- ・ とても優しい語りかけと内容だった（看護師）

② 気になったところ

- ・ “私たちにできること” を実践することができるだろうか（看護師）
- ・ 症例に対して最終的にどう対応したのか聞きたかった（看護師）
- ・ 意思決定支援の難しさを改めて知った（看護師）
- ・ 若者の力を“信じる”ことが自分は不足しているのでは、と反省させられた（看護師）
- ・ 一番知りたい、学びたいスライドがハンドアウトになかった（看護師）
- ・ 親の看取りの際の子供への影響について（看護師）
- ・ 患者さんが極端な発言をしたとき、どのように接したらいいのか事例をもっと聞きたかった（薬剤師）
- ・ 5,7 歳のお子さんの今後の気がなった（看護師）
- ・ 経済的な面での支援に土台があると治療を受けることがスムーズに行くのではないかと思う（看護師）
- ・ 患者さんの本当の思いを引き出すことの難しさを改めて感じた。しっかり患者さんを診て関係性を作っていくこと、意図をもって雑談する力を付けること（看護師）
- ・ 医療者の価値観や感覚で患者さんを困った人のようにされるのが気になった。医療だけではなく、福祉、宗教、哲学等の方々と考える機会があればと思った（臨床心理士）
- ・ AYA 世代の相談をしたかったけどできなかったこと、アンケートをスクリーニングに取り入れたこと

で病院で患者さんの関わりで何か変わったことはあるだろうか、病棟スタッフの意識の変化などの内容を知ることができた（看護師）

- ・既定の時間内でどう関係者を巻き込んでいっているのか（理解を得られている）、その手法をもう少し詳しく知りたいと思った（事務職員）
- ・「死」を受け入れた AYA 世代患者の現状対応をお聞きしたかった（その他）
- ・患者との関係性、日頃から関わりがあるかないかでも患者の思いなどの情報を得る、介入していくことは難しいのではないかなと思ったりする（看護師）
- ・若者は強いのか（看護師）
- ・緩和ケアチーム、MSW 等とのすみ分け、連携（医師）
- ・20 代のとき、友人が 3 人それぞれがんで亡くなった。このとき、彼女たちはどんなに悩んで選択をしたんだろうと考えながら話を聞いた。様々な状況の中でも一緒に考える時間を持ちたい（看護師）
- ・予防的に関わる→十分に答えていただいた（看護師）

③ 講演に対する要望

- ・とても勉強になった。関わりが難しい世代と思っても自分と同じ世代と思うとコミュニケーションや接し方はあまり構えなくてもいいな、と思った。ありがとうございました（看護師）
- ・症例をいくつか出していただいて、考えたところはいいと思う（看護師）
- ・症例をもっとたくさん聞いてみたい（看護師）
- ・うまく関わられた事例を教えてほしかった（看護師）
- ・事例検討をする時間がもう少しほしかった。考えを用紙に記入したり、その事例にほかの人はどう考えるのか、というのが知りたい（看護師）
- ・もう少し実際の事例があるとよかった（MSW）
- ・TV 会議等で県内の拠点病院等でも参加できるような研修会になればと思う。または、関係者限定（パスワード設定等）でも研修会の内容がサイトでみられるようになるといいと思う（事務職員）

◆次回の講演で希望すること

- ・症例をもっとたくさん聞いてみたい（看護師）
- ・AYA 世代を支える人への関わりや IC についての講演を拝聴したい（看護師）
- ・外来治療中の患者さんのフォローの仕方など（外来、薬局などで）（薬剤師）
- ・AYA 世代のがん患者の支援の実際を具体的に知りたい（看護師）
- ・AYA 世代の勤務を支えることについて、具体的取り組みを知りたい（臨床心理士）
- ・場所がわかりやすくてよかった（MSW）
- ・ゲノム医療について学びたい（不明）
- ・いろいろなテーマでしてほしい（看護師）
- ・がん遺伝子パネルについて、医師はもちろん、医師以外に広く説明してほしいと思う（医師）

◆がん診療センターに対するご要望があれば教えてください

- ・定期的に交流会等があれば参加したい（看護師）
- ・いつもスムーズな対応ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします（看護師）
- ・今後の看護に活かしていける内容ばかりでとても勉強になった。ありがとうございました（看護師）
- ・貴重な講演をありがとうございました（臨床心理士）